

科 目 名

環境と経済学 Environment and Economics

2年 前期 2単位 選択

田 代 敬 大

概 要

環境問題の解明と対応策検討のためには社会経済的仕組みの理解が不可欠であり、eco- を同語源とする ecology と economy は環境問題と経済問題の同時解決の必要性を示唆している。ここでは経済学の基礎として、国民所得決定、市場機構と資源配分、市場の失敗と環境経済学の誕生等について概説し、環境と経済の関係を考える基礎知識を習得する。

目 標

- 1) 自然環境と経済の基礎的な関係を理解する。
- 2) 経済学の基本的な概念と考え方を理解する。
- 3) 新聞読解演習を通して経済記事の基礎的読解力の育成を目標とする。

授業計画

テ ー マ	内 容
1) 自然と経済	自然と社会経済の関係
2) 自然と経済学	環境問題と伝統的経済学の対象
3) 国民所得決定 1	経済循環、SNA
4) 国民所得決定 2	国民所得決定のメカニズム
5) 国民所得決定 3	演習
6) 市場機構と資源配分 1	市場機構の概要、部分均衡・一般均衡
7) 市場機構と資源配分 2	家計効用と需要関数、企業利潤と供給関数
8) 市場機構と資源配分 3	市場均衡と資源配分、余剰
9) 市場機構と資源配分 4	演習
10) 市場の失敗 1	外部経済、外部不経済と環境問題
11) 市場の失敗 2	コモンズの悲劇と環境問題
12) 環境経済学の誕生 1	環境経済学の概要
13) 環境経済学の誕生 2	外部不経済の内部化
14) 環境経済学の誕生 3	環境問題から環境政策へ
15) 定期試験	成績評価

授業方法

教科書および配布するプリントを基に講義と演習を行う。

学習到達度の評価

- 1 授業中に教員より質問し理解度を促す。学生からは授業中・後に質問を受け授業を補足する。
- 2 適宜、レポートを課して、授業の理解度および発展学習を促す。
- 3 学生による授業評価、学生自身による自己評価の結果が出た時点で今後の授業の参考とする。

評価方法

レポート、定期試験の成績等を勘案して評価を行う。

教 材

教科書：脇田 成『エコナビ経済学入門』（日本評論社）およびプリント配布
参考書：植田和弘『環境経済学』（岩波書店）